

KANSAI Univ.

2011年
10月15日
第406号

関西大学通信 News

The first issue was published on June 19, 1969 and renewed on October 1, 2009.

■特集

関大防災特集 ～関大で地震が起こったら～

■学生広報スタッフ企画

大阪マラソン直前特集！

■CAMPUS TOPICS

インドネシアのガジャ・マダ大学と協定を締結



THINK × ACT
KANSAI
UNIVERSITY

関大防災Day2011での炊き出し訓練の様子
(関連記事2面参照)

関大防災特集

～関大で地震が起こったら～

10月4日に関西大学千里山キャンパスで、「関大防災Day2011 ～広かれ！みんなの安全・安心！～」を実施し、約1万人の学生、教職員、近隣住民などが地震の避難訓練を行いました。地震への備えは日頃の心構えが大切です。この機会に、キャンパスで地震が起こった場合どうするか、今一度確認しておきましょう。

●地震が起こったらここに避難！

千里山キャンパス



※消火器に各避難場所が記載されています。
いざというときは、消火器を確認しましょう。

高槻キャンパス



高槻ミュージズキャンパス



堺キャンパス



関大生必携！



地震発生時の注意事項が書かれています。常に携帯しておきましょう！

●地震が起こってからの流れ

★初期動作<授業中>…頭部を保護し、できるだけ机など丈夫な物の下に入って身を伏せてください。現場の教職員の指示に従い、揺れが収まり避難指示が出てから、走らず落ち着いた階段を使って避難しましょう。
<屋外>…カバンや着衣で頭部を保護し、ガラス飛散から身を守るため建物から離れて避難場所まで移動しましょう。

★避難場所へ移動

▼避難するときは…カバンや着衣を頭上に掲げて頭を守りましょう。走らず、足元に注意して、建物のそばから離れて移動しましょう。

★避難場所で安否確認シートを記載

▼安否確認シートとは？
キャンパス内にいるみなさんの安否を確認し、けがの有無、今後の予定などについて家族からの問い合わせに対応するために必要なものです。必ず記入しましょう。

★避難後の行動について

避難後の行動(大学で待機・帰宅など)については、日没までの時間や移動先までの所要時間(徒歩で1時間に進める距離は4km、1日に進める距離の限界は20km)などを考慮し、無事到達できるかどうかを判断のうえ、移動の可否を決めてください。



学生のみなさんへのメッセージ

地震避難で重要な点は「一人ひとりが安全である」ことです。情報がない中で混乱し、焦りを伴う行動をとると、それが周囲を誘発し、群衆事故発生の種となってしまいます。地震直後にはほぼ情報が断絶する環境となり、当然不安は高まります。それを払拭するためには、日頃からいざというときの決まりごとを周囲と共有しておくことです。大地震があったら、どのように行動するのか、それぞれで考え、家族や友人等々と共有しましょう。ある意味、情報断絶は仕方がない、と思った方が身のためです。「みんなが安全に行動している」という想いが結果として、自分の不安を和らげることとなります。



社会安全学部
越山健治准教授



吹田市消防本部
警防指令室 西消防署
廣田哲也さん 福本祥一さん

まずは身の安全の確保を

地震が起こった際、その場から逃げたい、家に帰りたと思うでしょうが、安全な場所で正確な情報を入手してから、大学担当者の指示に従い行動してください。

普段からシミュレーションが大切

大学の建物は比較的強固な作りですが、特に実験施設では、薬剤が入った実験器具などが倒れ、火災発生やけがの2次災害が想定されます。普段から転倒防止の対策をたてたり、想定を超える地震が来た場合に備えて、消火の手順、けが人が出た場合の対応などをシミュレーションしておくといいでしょう。

顔見知り同士の連帯感が時には危険に

授業中に地震が起こった場合、「大丈夫だね」と周囲が顔見知り同士という安心感から、逃げるのが遅くなってしまうことがあります。危機感は無くさないようにしてください。

関大生のみなさんへお願い

千里山キャンパスは、吹田市の一時避難地となっていますので、近隣住民の方も避難しに来られます。困っている方がおられましたら、学内のことをよく知っているみなさんの手助けが必要となりますので、ご協力よろしくをお願いします。

大阪マラソン直前特集!

10月30日(日)に開催される「第1回大阪マラソン」は、3万人のランナーが大阪のまちを駆け抜ける一大イベントです。オフィシャルスポンサーである関西大学からも多くの学生・教職員が参加します。大会直前の今号では、大阪の名所を巡るコースマップと、大会を盛り上げるために関西大学が行う各イベントを紹介します。

**関西大学による大阪マラソンイベント①
(中央公会堂前)**

コースの沿道にイベントスペースを設け、さまざまな学生団体がランナーを応援します。中央公会堂前では、以下の団体が沿道の観客とともに大阪マラソンを盛り上げます。

- ・応援団リーダー部
- ・応援団バトン・チアリーダー部
- ・応援団吹奏楽部

給水ボランティアとして学生ら400人が参加

大会当日、コース全体に15カ所設けられる給水所のうち、関西大学は5km地点の給水所を担当します。学内の公募で応募した学生や教職員ら400人が、給水ボランティアとして、ランナーをサポートします。

**関西大学による大阪マラソンイベント②
(大阪市西南環境事業センター前)**

大阪市西南環境事業センター前では、以下の団体が沿道の観客とともに大阪マラソンを盛り上げます。

- ・文化会能楽部
- ・文化会混声合唱団「葦」
- ・Jazz研究会
- ・チアリーディング同好会 CLAIRS
- ・関西大学ベリーダンスサークルBellyDivas

大阪マラソン開催記念シンポジウム in 関西大学

「ボランティアが重要なカギ」シンポジウムから学んだこと

9月24日、大阪マラソン開催記念シンポジウム『今、なぜ、スポーツボランティアなのか』が千里山キャンパスで行われた。マラソンランナーの谷川真理さんによる基調講演、パネルディスカッションが開催され、スポーツの大会などにボランティアが参画することの意義について議論が行われた。

シンポジウムに参加した田中真由美さん(商学部4年次生)は、「大阪を盛り上げたい」という気持ちを抱き、給水ボランティアに挑戦する。シンポジウム後「『多くの人々の応援やボランティアの支援が、ランナーの完走率に大きく影響する』という話が印象に残った。大阪から日本を元気にしたい」と語った。語学ボランティアとして参加する范賢娟さん(社会学部2年次生)は、「大阪で暮らして3年、大好きなこのまちで、母国語である中国語を人のために生かせることが嬉しい」と話し、シンポジウムでの話を踏まえ、参加者全員が楽しめる大会になるようベストを尽くすと、2人は意気込みを語ってくれた。



シンポジウムの様子



左から田中さん、范さん

大阪マラソンEXPO開催!

大阪マラソンの前日、前々日には「大阪マラソンEXPO2011」が開催されます。企業が出展するイベントブースや、府内市町村が地元情報を伝える観光ブース、大阪の食を紹介するコーナー、関西大学からも教育・研究力を発信するブースを設置し、大阪マラソンを盛り上げます。

— 日 時 —
 10月28日(金)～29日(土)
 11:00～20:00
 ※入場は19:30まで

— 場 所 —
 インテックス大阪1・2・3号館

大阪マラソン参加者インタビュー!

大阪マラソンに学生ランナー・給水ボランティア・語学ボランティアとして参加する関大生に、直前の意気込みを学生広報スタッフがインタビューしました。みなさんも大会で活躍する関大生と一緒に、大阪マラソンを盛り上げましょう!



ランナー・藤原 章斗さん(商学部4年次生)
(体育会サッカー部・体育会本部長)

期待と感謝の気持ちを胸に

学生ランナーとして大阪マラソンに参加する藤原さんは、体育会サッカー部に所属し、体育会本部長を務めている。「体育会に所属している自分たちが積極的に参加し、大会を盛り上げていきたいと思い、ランナーに応募した」と藤原さんは話す。本学の体育会は普段から、清掃活動や子どもたちを対象にしたスポーツ教室などスポーツを通じた地域貢献活動を行っており、給水ボランティアにも体育会に所属する学生が多く参加している。

「普段走ることのできない大阪のまちを走れることが楽しみ」と期待する藤原さんに大会への意気込みを聞くと、「体育会サッカー部での練習を生かして完走したい。目標は4時間で走り切る。また、この大会はボランティアの方々のサポートで成り立っているのだから、ランナーとして参加する僕は、自分のことばかり考えずに、サポートしてくれるみなさんに感謝の気持ちを持ちながら走りたい」と語った。期待と感謝の気持ちを胸に、大阪マラソンの開催を待つ。

ランナー・光岡 千尋さん(化学生命工学部2年次生)

走ることによって恩返しを

「完走することが目標です」。光岡さんにとって大阪マラソンを走り切ることはたくさんの意味を持つ。「大学生活中に何か一つのことをやり遂げたい」。その思いから、大阪マラソンの参加を決めた。中学・高校時代は陸上部に所属しており短距離ハードルの選手だったが、思うように結果が残せなかった。大学に入学してからも特に何もできていない。そんなときに知ったのが大阪マラソンだった。

「何としてでも走り切りたい。走り切れればどんなに苦しいことが起きても乗り越えられる気がする」。完走のために週に2・3回、10kmのランニングを欠かさずこなす。短距離から長距離へ舞台は変わっても、練習に対する姿勢は変わらない。参加が決まったとき、中学・高校の陸上部でお世話になった顧問の先生に連絡を入れた。「走り切ることで先生に恩返しをしたい」と胸に誓いマラソンに挑む。

笑顔と明るい表情が素敵な光岡さん。42.195kmを走り切るという目標を達成したとき、今以上に最高の笑顔を見せてくれるだろう。



給水ボランティア・林 祐貴さん(文学部2年次生)

繋がれ、ボランティア

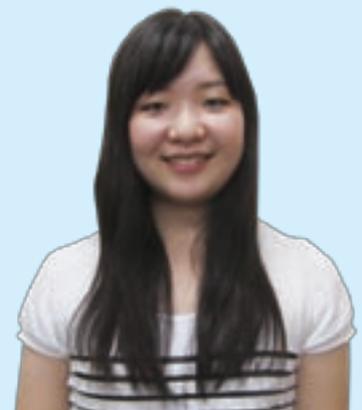
ボランティアセンターの学生スタッフとして活動している林さんは、今回の大阪マラソンに給水ボランティアとして参加する。「大阪マラソンという大きな舞台を通して、たくさんの人にボランティアの良さを知ってもらいたい」と意気込む林さんは、淀川の清掃や図書館の本の落書き消しなど、多くの活動に携わってきた。ボランティアの楽しみを聞くと「色々な人との出会い。普段会えない人と交流できることは、この先の経験にきっと繋がると思う」と語った。

今回林さんは5km地点の給水所を担当し、ランナーを励ます。また、20人のボランティアスタッフをまとめるグループリーダーも務める。「僕らが活動する姿を見た人たちが、来年のマラソンボランティアに参加しようと思ってくれると嬉しい」と期待を寄せる。「頑張っているランナーに "がんばれ" と声援を送るのではなく、ランナーが "がんばろう" と思ってもらえるようなサポートをしていきたい」。給水所で、ランナーをサポートする林さんの笑顔が目につく。

語学ボランティア・野口 晴加さん(法学部4年次生) **外国人ランナーも楽しめる大会に**

大阪マラソンで英語の語学ボランティアとして参加する野口さんは、地元でも国際交流協会が発行する広報誌の制作やイベントに参加するなど、さまざまなボランティアに参加している活動的な学生。国際交流協会でのボランティアを通して、地域の外国人の方々と交流することに楽しさを感じている。今回、語学ボランティアに応募したのも、「大規模なイベントに参加することは、たくさんの人に関われるいい機会だと思ったから」と笑顔で語った。

語学について尋ねると、「昔から英語に興味があり、普段から海外で放送されているテレビやラジオ番組を視聴するなど、英語を耳にする環境を自ら作っている。英語は世界共通言語だから、将来どんなときでも役に立つと思う」と答えた。イギリスへの留学経験を持ち、「どうやって自分の気持ちを伝えればいいのか分からず、留学先ではいろんな人に助けってもらったので、今度は自分が助ける番。外国人ランナーが感じる言葉の不安を無くすことができるようにサポートしたい」と語ってくれた野口さんの活躍に期待したい。





4年ぶりの優勝に輝いたハンドボール部員たち

■ハンドボール部男子

西日本大会で4年ぶり優勝 ～“全員ハンド”が勝利を呼ぶ～

大阪体育大に逆転負けを喫し2位に終わった春季リーグ。4年ぶりの頂点をめざして臨んだ第50回西日本学生選手権大会(8月8日～12日)では、見事勝利をつかんだ。

準決勝は因縁の大阪体育大との一戦。得点源の中嶋翔選手(総合情報学部4年次生)をけがで欠く厳しい状況

の中、開始早々、関大が次々にゴールネットを揺らし相手を圧倒。最後までリードを保ち、終了を告げるブザーが鳴り響く。長年立ちはだかっていた厚い壁を撃破した瞬間だった。しかし、彼らのリベンジはまだ終わらない。決勝で迎え撃つ中京大は、昨年のインカレで惜敗した因縁の相手。「最後は気持ちが

ものを言う」と田月裕也主将(文学部4年次生)はチームを鼓舞した。関大の3連続得点で始まった試合は、1点リードで後半へ。一進一退の攻防戦で同点に追いつかれ、延長戦へともつれ込んだ。前半は1-1で折り返し、後半復帰した中嶋選手らの活躍で28-27と勝利し、長い戦いに終止符を打った。

今回の快挙は、選手の活躍はもちろん、スタンドや女子部員、卒業生らの力強い応援も勝因の1つ。関大の一体感“全員ハンド”が勝利を呼び込んだ。「今後は西日本王者として恥じないようなゲームを」と語った田月主将。10月2日まで行われた関西学生秋季リーグ戦では4位と健闘した。

■柔道部

関大勢躍進!

～7選手が日本武道館(全日本選手権)の舞台へ～

関西王座を争った第30回関西学生体重別選手権大会(9月4日開催)。66kg級の牧良介選手(文学部3年次生)が優勝、90kg級の西清也主将(政策創造学部4年次生)と81kg級寺本裕基選手(人間健康学部2年次生)が準優勝に輝き、あわせて7人が全日本学生体重別選手権大会への出場を決めた。

牧選手は「1ヵ月前から優勝を狙っていた」という言葉通り快勝を続けた。準決勝では終始攻めの姿勢を崩さず主導権を握り、相手を翻弄し有効を奪取。そのまま時間が経過し判定勝ちに。続く頂上決戦では、激しい攻防が続く中、牧選手が仕掛けた。一本とはならなかったものの、技ありとの判定。流れを一気に引き寄せた。勝利の瞬間、満面の笑みで仲間たちの歓声に応えた牧選手。関西選手権においては、関大勢として初の優勝だ。「目の前の一戦一戦を大事にしたい」と語る西主将。寺本選手は手ごたえを感じつつ「まだ体力が足りない」と課題を口にした。

10月8日～9日、日本武道館にて行われた全日本選手権。7人の選手は大舞台でもひるむことなく試合に臨んだが、惜しくも上位入賞を逃した。今後の彼らの活躍に期待したい。



関西学生体重別選手権大会にて。左から西主将、牧選手、寺本選手

■陸上ホッケー部女子

創部初のインカレ出場! ～“ホッケーノート”でチームワークを向上～

一昨年1部リーグ入りした陸上ホッケー部女子。経験者が少ない中で、初のインカレ(全日本学生ホッケー選手権大会)出場という快挙を成し遂げた。全国の強豪校にひるむことなく、初戦突破をめざす。

インカレ出場権をかけ、挑んだ大阪体育大との5位決定戦。試合開始から互いに攻めの姿勢を崩さなかったが、前半終了まで残り4分、関大が相手の隙を突き先制点を決めた。後半の流れは一気に関大ペースへ。3-0で勝利し見事創部初のインカレ出場を決めた。「めっちゃうれしい。みんなでとった勝利」と山田佐千主将(文学部4年次生)。数少ない経験者の山田主将は、チームを一から作ってきた1人だ。レギュラー争いもし烈さを増す中、練習の反省や目標を書いて主将に提出する『ホッケーノート』を提案。“勝ちたい”

の言葉が並ぶノートを見て「みんなの気持ちが知れた」と、チームワークの向上を実感した。

立ち上がりでの集中力の欠如が課題とし、一層練習に励む選手たち。成長し続けている彼女たちは、全国の舞台でも活躍をみせてくれるに違いない。

★全日本学生ホッケー選手権大会は10月29日(土)～11月3日(木・祝) 岐阜グリーンスタジアムにて行われる。



■なぎなた部女子

みんなでつないだ全日3位! ～後輩からの応援ムービーが力に～

なぎなた部の3年次生5人が第50回全日本学生選手権大会3位と大健闘した。仲間へ「つなぐ」ことに重点を置いて挑んだ彼女たちの輝かしい結果だ。

8月6日、試合前日。5人でミーティング中、携帯電話に後輩からの応援ムービーが届く。驚きとともにうれしさを目を真っ赤にし「全員がチームだ」と実感した。試合当日、準決勝の相手は因縁の神戸松蔭大。堂々とした戦いを見せるもあと一歩及ばず。3位決定戦の日本体育大は決着がつかず判定へ。勝利を示す旗が3本揚がり喜びを爆発させた。

次の舞台は個人の西日本大会だ。今回の経験を次につなぐべく、彼女たちは勝利をつかみに行く。

競技説明

3分間の競技時間内に有効打突を2本先取した方が勝ち。代表者戦で決着がつかない場合は延長戦を行う。それでも決まらない場合は審判員の判定で決まる。



(取材編集:写真提供 関大スポーツ編集部)

CAMPUS TOPICS

インドネシアのガジャ・マダ大学と協定を締結

関西大学とインドネシアのガジャ・マダ大学は、基本協定および学生交換に関する協定を締結することで合意に達し、9月15日に協定の調印式を執り行った。今後、学生・研究者の交流をはじめ、学術情報および資料の交換などを行い、両大学のさらなる交流を図っていく。

ガジャ・マダ大学は、インドネシア最古かつ最大の州立大学で、300ヘクタールの土地に18学部、約55,000人の学生が学ぶ国内有数の大学。2009年に、日本文化・研究センター副所長のイカプトラ氏が本学の客員教授に就任した関係から共同のワークショップを開催するなど、活発な交流が行われてきた。このような交流実績を基に今回の協定に至った。

今回の協定により、本学の海外大学との協定校は60校となり、インドネシアの大学とは初めての協定締結となる。



協定書に調印した sudjarwadi ガジャ・マダ大学学長(写真左)と補見晴重学長

受賞

理工学研究科の長谷川亮太さんらの論文が JPSJ の "Papers of Editors' Choice" に選定

長谷川亮太さん(理工学研究科M2) および三好誠司教授(システム理工学部)らが執筆した論文「Image Segmentation Using Region-Based Latent Variables and Belief Propagation」が、日本物理学会論文誌である Journal of the Physical Society of Japan (月刊誌。以下 JPSJ) の Papers of Editors' Choice に選ばれた。

Papers of Editors' Choice とは、JPSJ に受理された論文の中から JPSJ 編集委員会が注目論文として選定し、今後の物理学の発展に大きく寄与する論文として紹介するものである。

今回選ばれた論文は、デジタル画像のノイズを除去するための技術に関するもの。ノイズを取り除く際、画素値が大きく異なる部分をエッジとして検出し、エッジを復元しながら画像を修復する。こうしてノイズを除去することで、より正確に本来の画像を知ることができる。

長谷川さんは、「さらなるアルゴリズムの改良により、最近のデジカメで標準的な1000万画素クラスの画像への適用をめざしたい」と今後について語った。



2011年度学園祭のテーマは「STAND UP !! 関祭!!」

2011年度の第34回関西大学統一学園祭は、11月3日(木)～6日(日)の日程で行われる。今年のテーマは、「STAND UP!! 関祭!!」。

この3月に発生した東日本大震災により、日本は甚大な被害を受け、今もなお、被災地はもとより国民の心に深い爪痕を残したままである。今年のテーマには、関西大学の学生、教職員、校友や地域の方々が文字通り「立ちあがり」「手を取りあって」日本全体に「元気」を発信したいとの強い想いが込められている。

今年の学園祭でも、例年通り多くのサークルやゼミが出店する模擬店やフリーマーケットをはじめ、研究発表、ステージ企画、講演会、地域と連携したイベントなど、連日様々な企画や催しが行われる。

11月5日(土)には、学園祭の目玉ともいえるライブがナオト・インティライミ、ET-KING、九州男の3組をゲストに迎え、今までにない3組合同という形で中央体育館にて実施され、11月6日(日)の夕刻には学園祭最大のイベントである「後夜祭」が悠久の庭で開催される。

在學生はもちろん校友や地域住民がこの4日間で大いに盛り上がり、日本全体に「元気」を発信するために、学園祭実行委員会を中心に日夜準備が進められている。(学生生活支援グループ)

受賞

全日本高校・大学書道展に関西大学学生が大賞と優秀賞を受賞

学生書道のグランプリを選出する「第16回全日本高校・大学書道展」(読売新聞主催、公益社団法人日本書芸院主催)において、応募総数10,774点の中から、「漢字の部」で本学の文学部1年次生の三宅萌子さんが大賞を、政策創造学部1年次生の伊藤裕加里さんが優秀賞を受賞した。

京都のお寺の住職から師事を受けている三宅さんは、高校時代は書道専門コースで週8時間、書道の授業を受け、年20回以上も書道展に出品するなど、持ち物に墨のにおいが移ってしまうほど、書道に情熱を注いできた。

「いつも支えてくれる家族と、お互い刺激し合って書道に励んできた友達への恩返しが少ないでもできたことが、一番嬉しいです」と笑顔で語った。

また、6歳から現在まで同じ先生について書道に打ち込んできた伊藤さん。今回の作品は大きいので、立ったままでないと書けず、筋肉痛になったと笑う。「少し地味な書道の世界をみなさんに知ってもらい、周りの人にも喜んでもらえて、書道を続けてきてよかった。いつか書道の先生になりたいです」と語った。



三宅さんの作品 伊藤さんの作品 優秀賞を受賞した伊藤さん

KUカレンダー10/16-31

日程	イベント・行事名	主対象	問い合わせ先
16日(日)	堺キャンパス 市民講座 笑いの総合科学(第2期)	学生・教職員・一般	堺キャンパスグループ
17日(月)	外国語教育学研究科 学術講演会 先端科学技術推進機構 第36回研究部門別発表会	学生・教職員・一般	外国語学部 先端科学技術推進機構
18日(火)	八代京子客員教授による講演会 法学研究所 関西大学 漢陽大学 第12回シンポジウム 法学部 学術講演会	学生・教職員・一般	研究所事務室 法文オフィス
19日(水)	伊藤達也客員教授による講演会 山崎登客員教授による講演会 法科大学院 国際シンポジウム(～20日)	学生・教職員・一般	会計専門職大学院 高槻ミュージズオフィス 専門職大学院事務グループ
20日(木)	奥正之客員教授による講演会	学生・教職員・一般	学長課
21日(金)	関西大学・熊本大学 学学連携による技術講座 in MOBIO	学生・教職員・一般	社会連携部
22日(土)	すこやか教養講座(第3期) 東西いのちの文化フォーラム	学生・教職員・一般	堺キャンパスグループ
28日(金)	東西学術研究所 創立60周年記念国際シンポジウム 英語教育連携センター 招聘講演(1)(2) 社会安全学部・大学院社会安全研究科 第2回東京シンポジウム(於・東京)	学生・教職員・一般	研究所事務室 英語教育連携センター 社会安全学部東京シンポジウム事務局
29日(土)	社会問題研究室 第67回公開講座 東西いのちの文化フォーラム	学生・教職員・一般	社会問題研究室
30日(日)	堺キャンパス 市民講座 笑いの総合科学(第2期)	学生・教職員・一般	堺キャンパスグループ

イベント・行事については、予告なく変更される場合があります。また、今後追加・中止となるイベント・行事もあります。詳細・最新情報については、本学ウェブサイトならびに問い合わせ先のウェブサイトなどで必ず確認してください。